



Cisco DNA Spaces におけるロケーション階層

この章では、Cisco Digital Network Architecture (DNA) Spaces におけるロケーション階層の構造と、Cisco DNA Spaces でロケーション階層を定義する方法について説明します。

- [ロケーション階層の概要 \(1 ページ\)](#)
- [ロケーション階層を定義するための前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [ロケーション階層の定義 \(3 ページ\)](#)
- [ロケーション階層の管理 \(16 ページ\)](#)
- [ロケーション階層での累積数の表示 \(36 ページ\)](#)

ロケーション階層の概要

Cisco DNA Spaces では、Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco Meraki などのワイヤレスネットワークで定義したものと同一構造のロケーションをインポートできます。

Cisco DNA Spaces のお客様にはそれぞれデフォルトのお客様名 (ルート名) が提供され、このお客様名は Cisco DNA Spaces ロケーション階層のルートロケーションとして機能します。

Cisco DNA Spaces はユニバーサルアカウントを提供するため、複数のワイヤレスネットワークのロケーションをインポートして管理できます。プロキシミティルールには、複数のワイヤレスネットワークのロケーションを含めることができます。

キャプティブポータルルール、エンゲージメントルール、ロケーションパーソナルルールなどのプロキシミティルールを作成し、ロケーション階層内の任意のロケーションのアクセスポイント、ユーザー、および子ロケーションを表示できます。ロケーション階層の各ロケーションのアクセスポイント、プロキシミティルール、子ロケーション、およびユーザーの数が、その特定のロケーションに対して表示されます。たとえば、あるグループのプロキシミティルール、子ロケーション、およびユーザーの数は、ロケーション階層のそのグループに対して表示されます。これらのロケーションパラメータの数は、累積的に表示されます。

ロケーション階層には、Cisco Prime Infrastructure または Cisco DNA Center からインポートされたマップで定義されている階層構造が自動的に反映されます。

Cisco DNA Spaces ダッシュボードでは、次の方法を使用して、キャンパス、ビルディング、フロアなどのロケーションのみをロケーション階層に選択的にインポートすることを可能にしています。

- AP ゾーンの追加
- ビルディングの追加
- キャンパスの追加
- CMX ゾーンの追加
- フロアの追加



- (注)
- キャンパス、ビルディング、フロアなどのロケーションがロケーション階層から削除された場合、以前にアップロードしたマップを [Map Service] > [Maps Upload] を使用してアップロードすることにより、ロケーション階層に追加し直すことができます。
 - Cisco DNA Spaces のお客様は、Cisco Prime Infrastructure ベースのマップから Cisco DNA Spaces 内の Cisco DNA Center ベースのマップに移行できます。ロケーション階層と既存の Cisco DNA Spaces データに影響を与えない方法で新しいマップへのシームレスな移行を確実にするために、Cisco DNA Spaces サポートチームに連絡してロケーション階層を検証し、いかなる問題も発生せずに確実にデータが引き継がれるようにすることを推奨します。

ロケーション階層を定義するための前提条件

Cisco DNA Spaces ダッシュボードでロケーション階層を定義するには、最初に Cisco Meraki、Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ、または Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラなどのワイヤレスネットワークで必要な階層構造を定義する必要があります。さらに、Cisco DNA Spaces とワイヤレスネットワーク間の接続を確立する必要があります。

- [Cisco DNA Spaces を使用するための Cisco Meraki の設定](#)
- [Cisco CMX を介して Cisco DNA Spaces をシスコ ワイヤレス コントローラに接続する](#)
- [Cisco WLC Direct Connect を使用した Cisco DNA Spaces のシスコ ワイヤレス コントローラへの接続](#)
- [Cisco WLC Direct Connect を使用した Cisco DNA Spaces の Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラへの接続](#)
- [Cisco DNA Spaces コネクタを使用した、Cisco DNA Spaces の Cisco AireOS ワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラへの接続](#)

ロケーション階層の定義

Cisco DNA Spaces は、次のワイヤレスネットワークをサポートしています。

- Cisco Meraki
- Cisco CMX を備えた、または備えていないシスコ ワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ



(注) Cisco CMX を備えていないシスコ ワイヤレス コントローラと、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの場合、Cisco DNA Spaces コネクタを使用して、コントローラと Cisco DNA Spaces の間で適切なデータ転送が行われるようにすることができます。

使用するワイヤレスネットワークに基づいて、次から必要な手順を選択します。

Cisco Meraki のロケーション階層の定義

Cisco Meraki ロケーションをインポートするには、最初にお客様の名前の下に Cisco Meraki 組織を追加する必要があります。その後、Meraki ネットワークをインポートできます。Meraki ネットワークをインポートすると、フロアとアクセスポイントもインポートされます。アクセスポイントをグループ化し、ネットワークまたはフロア レベルでゾーンを作成できます。ロケーションは、お客様名レベルまたは組織レベルでグループ化できます。顧客名を変更することもできます。

Meraki ネットワークロケーションには、Cisco DNA Spaces でサポートされているタグが付いた 1 つ以上の Meraki アクセスポイントが含まれる場合があります。このような Meraki ネットワークロケーションを追加すると、これらのタグ付き AP のみがロケーション階層に追加されます。現在、Cisco DNA Spaces では Cisco-DNAspaces タグのみがサポートされています。

Cisco DNA Spaces タグ付き AP が 1 つ以上ある Meraki ネットワークロケーションが Cisco DNA Spaces ロケーション階層にすでに追加されている場合、これらのタグ付き AP のみがバックグラウンドでのネットワークの同期中に追加されます。このネットワークのロケーション階層に存在する Cisco DNA Spaces タグの付いていない AP は、次のバックグラウンドでのネットワークの同期中に、それぞれのロケーションから削除されます。

ただし、Cisco DNA Spaces でサポートされているタグが Meraki ネットワーク内のどの AP にもない場合、すべてのアクセスポイントがロケーション階層に追加されます。タグ付けされた AP がいないそのような Meraki ネットワークロケーションが Cisco DNA Spaces ロケーション階層にすでに追加されている場合、すべての AP がロケーション階層に同期されます。既存のロケーション階層に変更はありません。

ロケーション階層を作成する前に、すべての前提条件が満たされていることを確認してください。ロケーション階層を作成するための前提条件については、[ロケーション階層を定義するための前提条件 \(2 ページ\)](#) を参照してください。



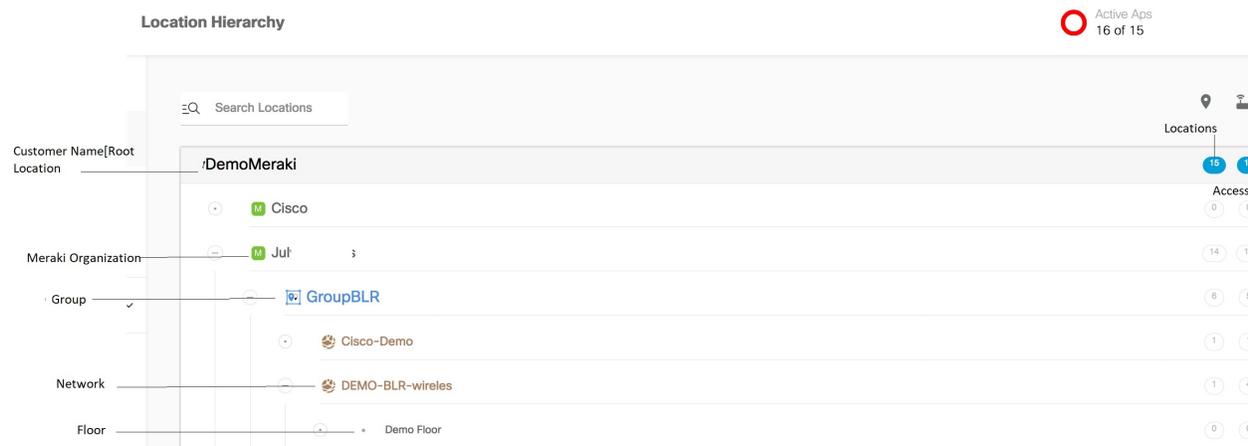
- (注) ロケーションをインポートするには、Cisco Meraki のログイン情報が必要です。その後、ロケーション階層は、Meraki サービスアカウントを使用して Cisco Meraki と同期されます。したがって、ロケーション階層を最新の状態に保つには、バックグラウンドでのネットワークの同期用に Cisco Meraki カスタマーアカウントで Cisco Meraki サービスアカウントを設定する必要があります。ただし、Cisco DNA Spaces を Cisco Meraki に接続するには、引き続き Meraki カスタマーアカウントを使用する必要があります。Cisco Meraki サービスアカウントの設定の詳細については、[Cisco Meraki サービスアカウントの設定](#)を参照してください。

Cisco Meraki ネットワークのロケーション階層は次のとおりです。

Meraki > 組織 > ネットワーク > フロア > アクセスポイント。

Cisco Meraki のロケーション階層を次の図に示します。

図 1: Meraki のロケーション階層



Meraki のログイン情報がない場合は、Meraki API キーを使用してロケーションをインポートできます。API キーを使用して Meraki からロケーションをインポートする方法の詳細については、[API キーを使用した Cisco Meraki ロケーションのインポート \(6 ページ\)](#)を参照してください。

Meraki のログイン情報を持っている場合、Meraki ロケーションを Cisco DNA Spaces にインポートするには、次の手順を実行します。



- (注) ロケーション階層を設定した後は、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認してください。定義されたタイムゾーンによって、Cisco DNA Spaces のルールとレポートが影響を受けます。

Cisco Meraki 組織の追加

Cisco DNA Spaces でロケーション階層を作成するには、ロケーション階層にロケーションをインポートする Cisco Meraki 組織を最初に追加する必要があります。



(注) Cisco DNA Spaces では、ロケーション階層に複数の Cisco Meraki 組織を追加できるため、複数の Meraki 組織に同時に接続することができます。

Cisco Meraki 組織をロケーション階層に追加するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [Cisco DNA Spaces] ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
 - ステップ 2 表示される [Location Hierarchy] ウィンドウで、顧客名（ルート名）の [More Actions] をクリックします。
 - ステップ 3 [Add a Wireless Network] を選択します。
 - ステップ 4 表示される [Wireless Network] ドロップダウンリストから、[Cisco Meraki] を選択します。
 - ステップ 5 Meraki アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。
 - ステップ 6 [Organization] ドロップダウンリストから、ロケーションのインポート元となる Cisco Meraki 組織を選択します。
 - ステップ 7 [Add] をクリックします。
- 追加された組織がロケーション階層のリストに表示されます。

Cisco Meraki 組織へのネットワークの追加

Cisco DNA Spaces では、Cisco Meraki のロケーション階層に従って、ネットワークとフロアの構造を管理できます。Cisco Meraki 組織をロケーション階層に追加した後、そのネットワークおよび関連付けられたフロアをインポートできます。

ネットワークおよび関連付けられたフロアをロケーション階層にインポートするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] をクリックします。
 - ステップ 2 [Location Hierarchy] ウィンドウで、ネットワークに追加する Cisco Meraki 組織の右端の [More Actions] アイコンをクリックします。
 - ステップ 3 [Add Network] を選択します。
 - ステップ 4 [Add Network] ウィンドウで、ロケーション階層に追加するネットワークを選択します。
 - [Add Network] ウィンドウに、その Cisco Meraki 組織で使用可能なすべてのネットワークが表示されます。
 - ステップ 5 [Add] をクリックします。
- 追加されたネットワークは、関連付けられたフロアとともにロケーション階層にリストされます。

(注) Cisco Meraki アプリケーションでは、ネットワーク名が重複しないようにします。

ゾーンの作成とアクセスポイントの追加

ゾーンを使用して、ネットワークまたはフロアのアクセスポイントをグループ化することができます。ゾーンは、ネットワークまたはフロアレベルで作成できます。



(注) フロアのアクセスポイントを変更することはできません。

ネットワークまたはフロアに対してゾーンを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ステップ 2 [Locations] ウィンドウで、ゾーンを作成するネットワークまたはフロアの右端にある [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 [Add Zone] を選択します。

ステップ 4 表示される [Add Zone] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) [Name] フィールドに、ゾーンの名前を入力します。
- b) [Select Access Points] エリアで、ゾーンに追加するアクセスポイントのチェックボックスをオンにします。
- c) [Add] をクリックします。

次のタスク



ヒント ゾーンを作成する前に、Cisco Meraki ダッシュボードでゾーンに含めるアクセスポイントを特定しておきます。



(注) ネットワークまたはフロアのアクセスポイントをゾーンに追加すると、そのアクセスポイントはそのネットワークまたはフロアでは使用できなくなります。ゾーンに追加されたアクセスポイントは、別のゾーンでは使用できません。

API キーを使用した Cisco Meraki ロケーションのインポート

API キーを使用して Cisco Meraki ロケーションをインポートするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 [Location Hierarchy] ウィンドウで、顧客名（ルート名）の [More Actions] アイコンをクリックし、次に [Add a Wireless Network] をクリックします。
 - ステップ 2 表示されるウィンドウで、[Add a Wireless Network] ドロップダウンリストから [Cisco Meraki] を選択します。
 - ステップ 3 [Cisco Meraki] を選択すると表示される [Import Organization using API] リンクをクリックします。
 - ステップ 4 [API Key] フィールドで、Meraki の API キーを入力して、[Fetch Organizations] をクリックします。
入力した API キーの組織が一覧表示されます。
 - ステップ 5 インポートする組織を選択して、[Add] をクリックします。
組織が [Locations] ウィンドウのリストに表示されます。
 - ステップ 6 組織の [More Actions] メニューの [Add Network] を使用して、組織のネットワークを追加します。
ネットワークをインポートすると、そのフロアとアクセスポイントもインポートされます。
 - ステップ 7 フロアの [More Actions] メニューの [Add Zones] を使用して、フロアにゾーンを作成します。
-

Cisco AireOS/ Cisco Catalyst のロケーション階層の定義

Cisco AireOS（シスコ ワイヤレス コントローラ）および Cisco Catalyst（Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレスコントローラ）を Cisco DNA Spaces に接続し、Cisco CMX、Cisco WLC Direct Connect、または Cisco DNA Spaces コネクタのいずれかを使用してロケーション階層をインポートできます。

Cisco CMX を使用した Cisco AireOS/シスコ ワイヤレス コントローラのロケーション階層の定義

ロケーション階層を作成する前に、すべての前提条件が満たされていることを確認してください。ロケーション階層を作成するための前提条件については、[ロケーション階層を定義するための前提条件（2 ページ）](#) を参照してください。

Cisco DNA Spaces は、Cisco CMX 10.6 以降のみをサポートします。



- (注) [Add a Wireless] ウィンドウの [CMX on Prem] オプションは機能しなくなります。Cisco DNA Spaces を Cisco CMX を使用して Cisco AireOS/Catalyst に接続する場合、ロケーションをロケーション階層にインポートするために、CMX テザリングを使用してロケーションをインポートできます。CMX テザリングは、マップをマップサービスにアップロードするか、Cisco CMX でトークンを設定することで実行できます。マップをインポートすると、マップデータが自動的に [Location Hierarchy] に反映されます。
-

Cisco CMX がインストールされている Cisco AireOS ワイヤレスコントローラのロケーション階層は次のとおりです。

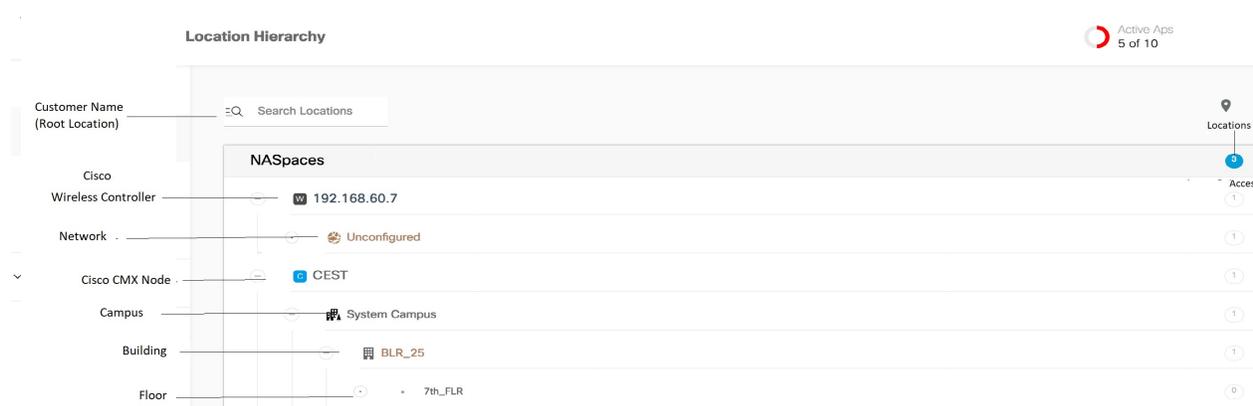
[Cisco CMX Node] > [Campus] > [Building (Network)] > [Floor] > [CMX Zone] (定義されている場合)



- (注)
- マップサービスの更新により、2020 年 10 月以降に新しくインポートされたロケーション階層には、[Campus] > [Building] > [Floor] > [CMX Zone] (定義されている場合) のみが含まれるようになります。ただし、マップのアップロードによって既存のロケーション階層に加えられた更新では、[CMX Node] が引き続き含まれます。
 - 既存のロケーション階層に対して、マップサービスを使用してロケーションを再インポートすると、重複する AP (すでにロケーション階層に存在し、インポートされたマップにも存在する AP) がマップベースの階層に移動されます。したがって、レポートおよびプロキシミティールールが影響を受けます。また、キャプティブポータルを表示したり、通知を送信したりするには、プロキシミティールールを再構成する必要があります。
 - [Cisco DNA Spaces] ダッシュボードでは、[Location Hierarchy] > [Add Wireless Networks] で、[CMX On-Prem] または [WLC Direct Connect] > [Import from Maps] を使用して、ロケーションのインポートが制限されます。

Cisco CMX を使用した Cisco AireOS/Catalyst ワイヤレスコントローラのロケーション階層を次の図に示します。

図 2: Cisco CMX によるロケーション階層



- (注)
- ロケーション階層を設定した後、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認します。定義されたタイムゾーンによって、Cisco DNA Spaces のルールとレポートが影響を受けます。

CMX テザリングを使用した、Cisco DNA Spaces のシスコ ワイヤレス コントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラへの接続

Cisco CMX 10.6 以降を使用している場合、CMX テザリング機能を使用して、Cisco DNA Spaces をコントローラに接続し、ロケーションをインポートし、通知とレポートのロケーション更新を設定できます。

Cisco DNA Spaces ネットワーク同期サーバーは、CMX テザリングの AP 同期をサポートしています。CMX テザリングの場合、Cisco Prime の AP に加えられた変更は、Cisco DNA Spaces のロケーション階層で更新されます。AP の変更を同期するには、次のいずれかを実行します。

- Cisco CMX で、[SYSTEM] をクリックします。表示されるダッシュボードで、[Settings] > [Controllers and Maps Setup] > [Import] を選択します。表示されるウィンドウで、Cisco Prime のユーザー名、パスワード、および IP アドレスを入力します。次に [Import Controllers and Maps] をクリックして、最新のマップ変更を取得します。[Save] をクリックします。
- Cisco Prime から更新されたマップをダウンロードし、Cisco CMX にアップロードします。
- Cisco Prime から更新されたマップをダウンロードし、Cisco DNA Spaces のマップサービスにアップロードします。

CMX テザリングを次の方法で実行できます。

Cisco CMX でのトークン設定による CMX テザリング

トークンによる CMX テザリングを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Setup] > [Wireless Networks] を選択します。
 - ステップ 2** [Connect your wireless network] ウィンドウで、[Add New] をクリックします。
 - ステップ 3** [Cisco AireOS/Catalyst] の [Select] をクリックします。
 - ステップ 4** [Connect Via CMX Tethering] の [Select] をクリックします。
このオプションを使用するための前提条件が表示されます。
 - ステップ 5** [Continue Setup] をクリックします。
[Connect your wireless network] ウィンドウに [Connect Via CMX Tethering] ウィジェットが表示されます。
 - ステップ 6** [Connect Via CMX Tethering] ウィジェットを展開します。
 - ステップ 7** ステップ 2 で表示された [Create New Token] をクリックします。
 - ステップ 8** [Create a new token] ウィンドウで、Cisco CMX テザリングの名前と説明を入力します。
 - ステップ 9** [Save] をクリックします。
 - ステップ 10** ステップ 2 で表示された [View Tokens] をクリックします。
追加された Cisco CMX テザリングインスタンスが一覧表示されます。
 - ステップ 11** Cisco DNA Spaces を Cisco CMX に接続するためのトークンを生成するには、[CMX Tethering Tokens] ウィンドウで、トークンを生成する Cisco CMX テザリングインスタンスの [Key] アイコンをクリックします。
 - ステップ 12** [コピー (Copy)] をクリックします。

マップサービスにロケーションマップをアップロードすることによる CMX テザリング

ステップ 13 Cisco CMX にログインします。

ステップ 14 **[Manage]** > **[Cloud Apps]** を選択します。

ステップ 15 表示される **[Cloud Applications]** ウィンドウで、**[Cisco DNA Spaces]** の **[Actions]** 列にある **[Enable]** をクリックします。

ステップ 16 表示されるウィンドウで、Cisco DNA Spaces ダッシュボードからコピーしたトークンを設定します。

トークンを使用して CMX テザリングを設定すると、特定の CMX ノードのロケーションマップが **[Map Service]** ウィンドウに表示され、ロケーションが Cisco DNA Spaces ダッシュボードの **[Location Hierarchy]** に自動的に表示されます。

(注) **[Location Hierarchy]** からロケーションを削除すると、**[Map Service]** から削除されます。

- (注)
- Cisco CMX で **[Cisco DNA Spaces]** サービスを有効にするには、Cisco DNA Spaces アカウントが必要です。
 - Cisco CMX の場合、ロケーション階層の **[More Actions]** を使用してキャンパス、ビルディング、およびその他の子ロケーションを追加することはできません。**[Setup]** > **[Map Service]** でロケーションを更新する必要があります。ただし、ゾーン (AP ゾーン) を追加することはできません。ロケーション階層からロケーションをグループ化または削除できます。ロケーション階層からロケーションを削除すると、そのロケーションは **[Map Service]** から削除されます。詳細については、[Cisco CMX を使用したシスコ ワイヤレス コントローラのロケーション階層の管理 \(28 ページ\)](#) を参照してください。
 - Cisco Prime でのロケーションの更新を Cisco DNA Spaces で自動的に同期するには、Cisco CMX の **[Map Sync]** ボタンをクリックする必要があります。

マップサービスにロケーションマップをアップロードすることによる CMX テザリング



(注) 設定は Cisco DNA Spaces の一部ではない外部アプリケーションで行うため、このマニュアル内のメニューパス、タブやウィンドウ、オプションなどに指定する名前が変わる場合があります。



(注) マップは、Cisco Prime または Cisco DNA Center からエクスポートできます。Cisco Prime Infrastructure または Cisco DNA Center からエクスポートされ、**[Map Service]** を使用して Cisco DNA Spaces にインポートされたマップは、**[Location Hierarchy]** の下に自動的に表示されます。

Cisco Prime からマップをエクスポートして、ロケーションをロケーション階層にインポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco Prime Infrastructure にログインします。

- ステップ 2** [Settings /Getting Started] ウィンドウで、ウィンドウの左上（Cisco ロゴの近く）にある円形のアイコンをクリックします。
- ステップ 3** 表示されるウィンドウで、左ペインの [Maps] をクリックします。
- ステップ 4** [Wireless Maps] 領域で、[Site Maps (Deprecated)] をクリックします。
- （注） [Site Maps (New)] オプションを使用して、新しい場所を追加できます。
- ステップ 5** [Go] の近くにあるドロップダウンリストをクリックし、[Export Maps] を選択します。
- ステップ 6** [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ロケーションマップのツリービューから、エクスポートする親ロケーション（CMX ノード）を選択し、**Export** をクリックします。
- （注） [Include Map Information] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- ロケーションマップをコンピュータに保存します。
- （注） マップは zip 形式でダウンロードし、同じ形式で Cisco DNA Spaces にアップロードする必要があります。
- ステップ 8** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Setup] > [Map Service] を選択します。
- ステップ 9** ウィンドウの左上にある [Upload] をクリックし、Cisco Prime Infrastructure からダウンロードしたロケーションマップを選択します。
- ロケーションマップが [Map Service] にアップロードされます。
- （注） マップに表示される正方形のアイコン（展開/折りたたみアイコンの下）を使用して、[Setup] > [Map Service] で CMX ゾーンを追加できます。
- ステップ 10** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
- [Map Service] にインポートされたロケーションマップで使用可能なキャンパスとそれに関連するビルディングとフロアが表示されます。
 - Cisco Prime Infrastructure からエクスポートされ、[Map Service] を使用して Cisco DNA Spaces にインポートされたマップが、[Location Hierarchy] の下に自動的に表示されます。
 - [Location Hierarchy] からロケーションを削除すると、[Map Service] から削除されます。

- (注)
- Cisco CMX の場合、ロケーション階層の [More Actions] を使用してキャンパス、ビルディング、およびその他の子ロケーションを追加することはできません。[Setup] > [Map Service] でロケーションを更新する必要があります。ただし、ゾーン (APゾーン) を追加することはできません。ロケーション階層からロケーションをグループ化または削除できます。ロケーション階層からロケーションを削除すると、そのロケーションは [Map Service] から削除されます。詳細については、[Cisco CMX を使用したシスコ ワイヤレス コントローラのロケーション階層の管理 \(28 ページ\)](#) を参照してください。
 - Cisco Prime でのロケーションの更新を Cisco DNA Spaces で同期するには、最新のマップをマップサービスにアップロードする必要があります。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラまたはシスコ ワイヤレス コントローラ (Cisco CMX なし) のロケーション階層の定義

次のいずれかのコネクタを使用して、Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ (CMX なし) または Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラを Cisco DNA Spaces に接続できます。

- Cisco WLC Direct Connect
- Cisco DNA Spaces コネクタ

これらのコネクタでサポートされる機能の詳細については、[各種コネクタがサポートする機能](#) を参照してください。

Cisco WLC Direct Connect または Cisco DNA Spaces コネクタを使用してコントローラを Cisco DNA Spaces に接続すると、次のいずれかの方法を使用して、ロケーションをロケーション階層にインポートできます。

- [Access Point Prefix] : このオプションを使用している場合は、ロケーション階層にネットワーク、グループ、およびゾーンのみを追加できます。シスコ ワイヤレス コントローラを Cisco DNA Spaces に接続し、ロケーション階層を Cisco DNA Spaces ダッシュボードにインポートする方法の詳細については、[アクセスポイントプレフィックスを使用したロケーションのインポート \(13 ページ\)](#) を参照してください。または、Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Setup] > [Wireless Networks] で、[Connect WLC/Catalyst 9800 Directly] の設定手順を参照することもできます。
- [Importing from Maps] : このラジオボタンは現在無効になっています。現在、マップを介してロケーションをインポートするには、[Setup] > [Map Service] を使用する必要があります。マップを使用すると、Cisco Prime、Campus-Building-Floor と同じ階層構造で場所をインポートできます。ロケーション階層のロケーションを表示するには、ロケーションマップを Cisco Prime Infrastructure からエクスポートして、そのマップを Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Map Service] オプションにアップロードする必要があります。マップを Cisco DNA Spaces にインポートすると、マップデータはロケーション階層に自動的に反映されます。マップサービスを使用したロケーションのインポートの詳細については、[マップ](#)

プサービを使用したロケーションのロケーション階層へのインポート (15 ページ) を参照してください。



- (注)
- 以前に Cisco DNA Spaces で Cisco CMX を使用していた場合、Cisco DNA Spaces でシスコワイヤレスコントローラを直接使用するように移行した場合は、レポートとプロキシミティールールが影響を受けます。レポートは、新しいロケーション構成に基づいて表示されます。また、キャプティブポータルを表示したり、通知を送信したりするには、プロキシミティールールを再構成する必要があります。
 - 既存のロケーション階層に対して、マップサービスを使用してロケーションを再インポートすると、重複する AP (すでにロケーション階層に存在し、新しくインポートされたマップにも存在する AP) がマップベースの階層に移動されます。したがって、レポートおよびプロキシミティールールが影響を受けます。また、キャプティブポータルを表示したり、通知を送信したりするには、プロキシミティールールを再構成する必要があります。

アクセスポイントプレフィックスを使用したロケーションのインポート

ステップ 1 ロケーションを Cisco DNA Spaces にインポートするには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードの左上にある 3 本線のメニューアイコンをクリックします。

ステップ 2 [Location Hierarchy] を選択します。

ステップ 3 [Location Hierarchy] ウィンドウで、顧客名 (ルート名) の右端にある [More Actions] をクリックします。

ステップ 4 [Add a Wireless Network] をクリックします。

ステップ 5 [Network Settings] ドロップダウンリストから、[WLC Direct Connect] を選択します。

ステップ 6 [Access Point Prefix] オプションボタンをクリックします。

インポートされたシスコワイヤレスコントローラが一覧表示されます。

(注) シスコワイヤレスコントローラは、そのシスコワイヤレスコントローラを Cisco DNA Spaces にインポートするように設定した場合にのみリストに表示されます。

ステップ 7 シスコワイヤレスコントローラを選択し、[Next] をクリックします。

このシスコワイヤレスコントローラは、プライマリシスコワイヤレスコントローラとして機能します。

ステップ 8 セカンダリコントローラとして別のシスコワイヤレスコントローラを選択し、[Next] をクリックします。

(注) この機能は、プライマリコントローラがダウンした場合に、同じ AP を含むセカンダリシスコワイヤレスコントローラで Cisco DNA Spaces を管理するのに役立ちます。

セカンダリコントローラはオプションです。[Skip] ボタンをクリックすると、セカンダリコントローラを選択せずに次の画面に移動できます。

ステップ 9 追加するネットワークを選択します。

(注) Cisco DNA Spaces は、AP 名のプレフィックスに基づいて AP を自動的にグループ化し、ネットワークを作成します。ネットワークでグループ化されていない AP は、「Unconfigured」という名前でリストに表示されます。

(注) あるネットワークを選択していない場合、そのネットワーク内の AP は、「Unconfigured」という名前でロケーション階層に追加されます。

ステップ 10 [完了 (Done)] をクリックします。

選択したプライマリコントローラとセカンダリコントローラの AP がロケーション階層に一覧表示されます。

ステップ 11 ロケーション階層で、ネットワークの右端にある [More Actions] アイコンをクリックし、次に [Add Zone] をクリックします。

ステップ 12 表示されるウィンドウで、ゾーンの名前を入力し、ゾーンに含める AP を選択します。

ステップ 13 同様に、必要なすべてのゾーンを作成します。

ステップ 14 すでに Cisco CMX を使用してロケーション階層を作成している場合は、そのロケーション階層を削除し、キャプティブポータルルール、エンゲージメントルール、ロケーションパーソナルルールなどのルールを再設定します。

- (注)
- ロケーション階層を設定した後、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認します。定義されたタイムゾーンによって、Cisco DNA Spaces のルールとレポートが影響を受けます。
 - シスコワイヤレスコントローラに AP を追加するときは、Cisco DNA Spaces での自動ネットワーク作成を容易にするため、適切な命名規則に従います（該当するプレフィックスを使用）。
 - シスコワイヤレスコントローラで、新しい AP がシスコワイヤレスコントローラに追加されると、追加された AP は、次のシスコワイヤレスコントローラ同期の際に自動的にインポートされます。インポートされた AP がシスコワイヤレスコントローラから削除された場合、この変更は 48 時間経過しないと Cisco DNA Spaces に反映されません。
 - シスコワイヤレスコントローラでは、Cisco DNA Spaces を使用して、異なるプレフィックスを持つアクセスポイントを 1 つのネットワークでグループ化できます。ネットワークをロケーション階層にインポートした後、ネットワークをクリックして、さまざまなプレフィックスの AP を追加します。ロケーション階層でネットワークロケーションをクリックすると、[Location Info] タブに、そのネットワークにさまざまなプレフィックスの AP を追加するための新しい [Access Points Prefix Used] オプションが表示されます。プレフィックスを追加すると、指定されたプレフィックスを持つ、未構成のネットワークに属する AP がこのネットワークに移動します。[Access Points Prefix Used] オプションは、ネットワークロケーションでのみ使用できます。ただし、[Access Points Prefix Used] オプションを未構成のネットワークに対して使用することはできません。

次のタスク

プライマリコントローラを変更したり、セカンダリコントローラを追加したりすることができます。さまざまなプレフィックスの AP を 1 つのネットワークに追加することもできます。詳細については、[シスコワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズコントローラのロケーション階層の管理 \(WLC Direct Connect または Cisco DNA Spaces コネクタを使用\) \(32 ページ\)](#) を参照してください。

マップサービスを使用したロケーションのロケーション階層へのインポート

シスコワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラが WLC Direct Connect または Cisco DNA Spaces コネクタを介して Cisco DNA Spaces に接続されている場合、マップサービスを使用してロケーションをロケーション階層にインポートできます。このオプションを使用している場合は、同じ階層構造（キャンパス - ビルディング - フロア）に場所をインポートできます。



(注) マップは、Cisco Prime または Cisco DNA Center からエクスポートできます。Cisco Prime Infrastructure または Cisco DNA Center からエクスポートされ、[Map Service] を使用して Cisco DNA Spaces にインポートされたマップは、[Location Hierarchy] の下に自動的に表示されます。

Cisco Prime からマップをエクスポートして、ロケーションをロケーション階層にインポートするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 Cisco Prime Infrastructure にログインします。
- ステップ 2 [Settings /Getting Started] ウィンドウで、ウィンドウの左上（Cisco ロゴの近く）にある円形のアイコンをクリックします。
- ステップ 3 表示されるウィンドウで、左ペインの [Maps] をクリックします。
- ステップ 4 [Wireless Maps] 領域で、[Site Maps (Deprecated)] をクリックします。

(注) [Site Maps (New)] オプションを使用して、新しい場所を追加できます。
- ステップ 5 [Go] の近くにあるドロップダウンリストをクリックし、[Export Maps] を選択します。
- ステップ 6 [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7 ロケーションマップのツリービューから、エクスポートする親ロケーション（CMX ノード）を選択し、[Export] をクリックします。

(注) [Include Map Information] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- ステップ 8 ロケーションマップをコンピュータに保存します。

(注) マップは gzip 形式でダウンロードし、同じ形式で Cisco DNA Spaces にアップロードする必要があります。
- ステップ 9 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Setup] > [Map Service] を選択します。

ステップ 10 ウィンドウの左上にある [Upload] をクリックし、Cisco Prime Infrastructure からダウンロードしたロケーションマップを選択します。

ロケーションマップが [Map Service] にアップロードされます。

ステップ 11 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

- [Map Service] にインポートされたロケーションマップで使用可能なキャンパスとそれに関連するビルディングとフロアが表示されます。
- Cisco Prime Infrastructure からエクスポートされ、[Map Service] を使用して Cisco DNA Spaces にインポートされたマップが、[Location Hierarchy] の下に自動的に表示されます。
- [Location Hierarchy] からロケーションを削除すると、[Map Service] から削除されます。

(注) ロケーション階層を設定した後は、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認してください。定義されたタイムゾーンによって、Cisco DNA Spaces のルールとレポートが影響を受けます。

- ロケーションが [Map Service] を使用してインポートされた場合、ロケーション階層の [More Actions] を使用してキャンパス、ビルディング、およびその他の子ロケーションを追加することはできません。[Setup] > [Map Service] でロケーションを更新する必要があります。ただし、ゾーン (AP ゾーン) を追加することはできません。ロケーション階層からロケーションをグループ化または削除できます。ロケーション階層からロケーションを削除すると、そのロケーションは [Map Service] から削除されます。詳細については、[Cisco CMX を使用したシスコワイヤレスコントローラのロケーション階層の管理 \(28 ページ\)](#) を参照してください。

ロケーション階層の管理

顧客の名前の変更

顧客の名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] をクリックします。

ステップ 2 [Location Hierarchy] ウィンドウで、顧客名の右端にある [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 [Rename <ルート名>] をクリックします。

ステップ 4 表示される [Rename root] ウィンドウに新しい顧客名を入力します。

ステップ 5 [Rename] をクリックします。

ワイヤレスネットワークの追加

Cisco DNA Spaces は、Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ（シスコ ワイヤレス コントローラ）、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ、および Cisco Meraki をサポートしています。[Add a Wireless Network] オプションを使用して、複数のワイヤレスネットワークをロケーション階層に追加できます。

[Add a Wireless Network] ウィンドウの [Add a Wireless Network] ドロップダウンリストには、次の3つのオプションがあります。

- [Meraki] : Meraki ネットワークのロケーション階層を定義します。
- [CMX OnPrem] : このオプションは機能しなくなります。ロケーション階層へのロケーションのインポートは、[Setup] > [Map Service] で管理されます。
- [WLC Direct Connect] : Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラまたはシスコ ワイヤレス コントローラ (Cisco CMX なし) のロケーション階層を定義します。

[Add a Wireless Network] オプションを使用した Cisco CMX ノード、Cisco Meraki 組織、またはシスコ ワイヤレス コントローラ アクセス ポイントの追加に関する詳細については、[ロケーション階層の定義 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

ロケーションのメタデータの追加

メタデータを使用してロケーションをグループ化できます。プロキシミティルールを定義するときに、このメタデータを使用できます。このメタデータを使用して、Behavior Metrics アプリのブランドを定義することもできます。

ロケーションのメタデータを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
 - ステップ 2** [Location Hierarchy] ウィンドウで、メタデータを追加するロケーションの [More Actions] をクリックします。
 - ステップ 3** [Add/Edit Metadata] をクリックします。
 - ステップ 4** 表示される [Add Metadata for <location>] ウィンドウで、次の手順を実行します。
 - a) [Key] フィールドに、メタデータキーを入力します。
 - b) 値のフィールドにキーの値を入力します。
 - c) [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク



(注) 同様に、このメタデータが必要な他のロケーションにメタデータを追加します。

ロケーションのメタデータの更新

ロケーションのメタデータを更新するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Location Hierarchy] ウィンドウで、ロケーションのメタデータを更新するロケーションの右端にある [More Actions] をクリックします。
- ステップ 2** [Add/Edit Metadata] をクリックします。
- ステップ 3** [Add Metadata for <location>] ウィンドウが表示されたら、更新するメタデータをクリックします。
- ステップ 4** 必要な変更を行って、[Update] をクリックします。
-

次のタスク



- (注) そのメタデータの [Delete] ボタンをクリックすると、ロケーションメタデータを削除できます。
-

ロケーションのタイムゾーンの定義または変更

ロケーション階層内のさまざまなロケーションにタイムゾーンを定義できます。ロケーションのタイムゾーンを定義するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
- ステップ 2** [Location Hierarchy] ウィンドウで、タイムゾーンを定義するロケーションをクリックします。
- ステップ 3** [Location Info] タブで、[Location Data] の [Edit] をクリックします。
[Location Information] ポップアップウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [Select Time Zone] ドロップダウンリストから、このロケーションに設定するタイムゾーンを選択します。
- ステップ 5** [更新 (Update)] をクリックします。
タイムゾーンがロケーションに定義されます。
-

次のタスク



- (注) ロケーションでは設定されたタイムゾーンに基づいて通知が送信されます。
-

ロケーションの情報の追加

ロケーション階層では各ロケーションのアドレスなどの情報を指定できます。
ロケーションのロケーション情報を追加するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードの左上にある 3 本線のメニューアイコンをクリックします。
- ステップ 2 [Location Hierarchy] を選択します。
- ステップ 3 [Location Hierarchy] ウィンドウで、情報を追加するロケーションをクリックします。
- ステップ 4 [Location Info] タブで、[Location Data] の [Edit] をクリックします。
- ステップ 5 表示される [Location Information] ウィンドウで、特定のロケーションの情報を入力します。

ロケーションに関する次の情報を追加できます。

- ブランド
- 国
- 都道府県
- 市区町村郡
- 郵便番号
- 住所
- タイムゾーン
- 面積（平方フィートまたは平方メートル）
- 収容人数制限（最大キャパシティ）

- ステップ 6 [更新 (Update)] をクリックします。

追加されたロケーション情報は、[Location Info] タブの [Location Data] エリアに表示されます。

(注) ロケーション情報を指定しない場合、そのロケーションは親ロケーションの情報を継承します。親ロケーションから継承されたロケーション情報はオレンジ色で表示されます。ただし、ロケーションごとにロケーション情報を更新することをお勧めします。

ロケーションの検索

名前を使用してロケーション階層内のロケーションを検索できます。ロケーション階層のロケーションを検索するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [Search] フィールドに、検索するロケーションの名前を入力します。

ロケーションがロケーション階層で強調表示されます。

アクセスポイントの検索

名前または MAC アドレスを使用してアクセスポイントを検索できます。

ロケーション階層のアクセスポイントを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [Search] フィールドに、検索するアクセスポイントの名前または MAC アドレスを入力します。

アクセスポイントが強調表示されます。

ロケーションのマップの管理

マップはデフォルトでワイヤレスネットワークのマップ設定に基づいて表示されます。

ロケーションのマップを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 ロケーション階層で、マップを表示するロケーションをクリックします。

ステップ3 [Maps] タブをクリックします。

マップが [Maps] タブに表示されます。

アクセスポイントの管理

ゾーンへのアクセスポイントを追加または削除できます。

ゾーンへのアクセスポイントの追加

ゾーンにアクセスポイントを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ロケーション階層で、アクセス ポイントを追加するゾーンをクリックします。
- ステップ 3** [Modify Access Points] をクリックします。
- ステップ 4** 追加するアクセス ポイントのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Add] をクリックします。
アクセス ポイントが、ゾーンに追加されます。
-

次のタスク



(注) そのゾーンにアクセスポイントがない場合、ボタンの名前は [Add Access Points] になります。



(注) Cisco Unified Wireless Network の場合、アクセスポイントをインポートするには、Cisco CMX にパブリックにアクセスできる必要があります。デフォルトの Cisco Unified Wireless Network インストールでは、ポート 80 とポート 443 が開いている必要があります。詳細については、「Cisco DNA Spaces を展開するための帯域幅要件」のセクションを参照してください。

ゾーンからのアクセス ポイントの削除

ゾーンからアクセス ポイントを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ロケーション階層で、アクセス ポイントを削除するゾーンをクリックします。
- ステップ 3** [Modify Access Points] をクリックします。
- ステップ 4** 削除するアクセスポイントのチェックボックスをオフにします。
- ステップ 5** [Add] をクリックします。
アクセス ポイントが、ゾーンから削除されます。
-

ロケーションのアクセスポイントの表示

各ロケーションにあるアクセスポイントを表示できます。理想的には、アクセスポイントはフロアまたはゾーンに属しています。

ロケーションのアクセスポイントを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロケーション階層で、アクセスポイントを表示するロケーションをクリックします。

ステップ 3 [Access Points] タブをクリックします。

そのロケーションに関連付けられているアクセスポイントが表示されます。

次のタスク



(注) ロケーションの [Access Points] リンクは、そのロケーションに少なくとも 1 つのアクセスポイントが存在する場合にのみ有効になります。

グループの管理

Cisco DNA Spaces では、グループ名の名前変更、グループの編集、および個別のグループの削除を行うことができます。

グループの作成

グループ化を使用して、ロケーションのセットに固有のプロキシミティールールを作成することができます。ロケーション階層の上位レベルにグループを作成できます。

Cisco Unified Wireless Network の場合、ロケーション階層内の CMX ノードまたはキャンパスをグループ化できます。たとえば、あるグループの下で Campus 1 と Campus 2 をグループ化し、別のグループの下で Campus 3 と Campus 4 をグループ化することができます。また、これらのグループの下にサブグループを作成することもできます。Meraki の場合、ロケーション階層の Cisco Meraki 組織またはネットワークをグループ化できます。たとえば、あるグループの下で Network 1 と Network 2 をグループ化し、別のグループの下で Network 3 と Network 4 をグループ化することができます。また、これらのグループの下にサブグループを作成することもできます。

Cisco Unified Wireless Network と Meraki の両方のワイヤレス ネットワーク ノードを含むグループを作成することもできます。ただし、Cisco Unified Wireless Network と Meraki の下位レベルのロケーションをグループ化することはできません。たとえば、キャンパスと Meraki ネットワークをグループ化することはできません。

ロケーションに対してグループを作成するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] をクリックします。
- ステップ 2** [Location Hierarchy] ウィンドウで、グループを追加するロケーションの右端にある [More Actions] をクリックします。
- ステップ 3** [Create Group] をクリックします。
- ステップ 4** 表示されるウィンドウで、次の手順を実行します。
- グループの名前を入力します。
 - グループの下に追加するロケーションを選択します。
- (注) 選択可能なロケーションは、ロケーション階層においてグループを追加するロケーションによって異なります。たとえば、(ルートレベルではなく) 顧客名の下にグループを追加する場合、第一レベルのロケーション (CMX ノード、Cisco Meraki 組織など) を選択することができます。CMX ノードの下にグループを追加すると、その CMX ノードの下のキャンパスのみ選択できます。
- [Add] をクリックします。

次のタスク



ヒント ロケーションのない親グループと、ロケーションのあるサブグループが必要な場合は、まず、サブグループの一部になる必要があるロケーションすべてを含む親グループを作成します。それから親グループの下にサブグループを作成します。親グループに追加されたロケーションを選択することができます。サブグループの下に追加するロケーションを選択します。同様に、親グループの下にさらにサブグループを作成することができます。



(注) ロケーションはいつでもグループに追加できます。

グループの名前変更

グループの名前を変更するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
- ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ロケーション階層で、名前を変更するグループの [More Actions] をクリックします。
- ステップ 3** [Rename "group name"] をクリックします。
- ステップ 4** 表示される [Rename group] ウィンドウに、グループの新しい名前を入力します。

ステップ5 [Rename] をクリックします。

グループの編集

ロケーションをグループに追加またはグループから削除できます。
グループを編集するには、次の手順を実行します。

ステップ1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 ロケーション階層で、編集したいグループの [More Actions] をクリックします。

ステップ3 [Edit group] をクリックします。

ステップ4 表示される [Edit Group] ウィンドウで、グループの一部にするロケーションのチェックボックスをオンにします。

ステップ5 [更新 (Update)] をクリックします。

グループの削除

グループを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 ロケーション階層で、削除するグループの右端の [More Actions] をクリックします。

ステップ3 [Delete group] ボタンをクリックします。

次のタスク



(注) グループを削除するには、そのグループのロケーションとサブグループを（存在する場合）先に削除する必要があります。



(注) プロキシミティルールに関連付けられたゾーンは削除できません。

ゾーンの管理

Cisco Unified Wireless Network または Meraki 用に作成されたゾーンの名前を変更、削除できます。

ゾーンの名前変更

ゾーンの名前を変更するには、次の手順を実行します

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロケーション階層で、名前を変更するゾーンの [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 [Rename "zone name"] をクリックします。

ステップ 4 表示される [Rename-zone] ウィンドウに、ゾーンの新しい名前を入力します。

ステップ 5 [Rename] をクリックします。

ゾーンの削除

ゾーンを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロケーション階層で、削除するフロアの [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 [Delete zone] をクリックします。

次のタスク



(注) プロキシミティルールに関連付けられたゾーンは削除できません。

Meraki のロケーション階層の管理

Meraki に属するロケーションの名前を変更したり、ロケーションを削除したりできます。

ネットワークにフロアを追加する

ネットワークにフロアを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
- ステップ 2** [Location Hierarchy] ウィンドウで、フロアを作成するネットワークの右端にある [More Actions] をクリックします。
- ステップ 3** 表示される [Add Floor] ウィンドウで、ネットワークに追加するフロアを選択します。
- ステップ 4** [Add] をクリックします。
フロアがネットワークに追加されます。
-

Cisco Meraki 組織の名前変更

Cisco Meraki 組織の名前を変更するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ロケーション階層で、名前を変更する組織の [More Actions] をクリックします。
- ステップ 3** [Rename "Organization Name"] をクリックします。
- ステップ 4** 表示される [Rename-Meraki] ウィンドウに、Cisco Meraki 組織の新しい名前を入力します。
- ステップ 5** [Rename] をクリックします。
-

Cisco Meraki 組織の削除

Cisco Meraki 組織を削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ロケーション階層で、削除する Cisco Meraki 組織の [More Actions] をクリックします。
- ステップ 3** [Delete Organization] をクリックします。
-

次のタスク



(注) 組織を削除するには、その組織のロケーションとグループを（存在する場合）先に削除する必要があります。

- プロキシミティルールに関連付けられた組織は削除できません。

ネットワークの名前変更

ネットワークの名前を変更するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** ロケーション階層で、名前を変更するネットワークの [More Actions] をクリックします。
 - ステップ 3** [network name] をクリックします。
 - ステップ 4** 表示される [Rename-location] ウィンドウに、ロケーションの新しい名前を入力します。
 - ステップ 5** [Rename] をクリックします。
-

ネットワークの削除

ネットワークを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** ロケーション階層で、削除するネットワークの [More Actions] をクリックします。
 - ステップ 3** [Delete network] をクリックします。
-

次のタスク



(注) ネットワークを削除するには、そのネットワーク内のアクセスポイントを（存在する場合）先に削除する必要があります。

- プロキシミティルールに関連付けられたネットワークは削除できません。

フロアの名前変更

フロアの名前を変更するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** ロケーション階層で、名前を変更する組織の [More Actions] をクリックします。
 - ステップ 3** [Rename "floor name"] をクリックします。

ステップ 4 表示される [Rename-floor] ウィンドウに、フロアの新しい名前を入力します。

ステップ 5 [Rename] をクリックします。

フロアの削除

フロアを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロケーション階層で、削除したいフロアの [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 [Delete floor] をクリックします。

次のタスク



(注) 削除するフロアの下にゾーンがある場合、そのゾーンは、フロアの削除の後、ネットワークの下に移動します。



(注) プロキシミティルールに関連付けられたフロアは削除できません。

Cisco CMX を使用したシスコワイヤレスコントローラのロケーション階層の管理

Cisco CMX を使用しているシスコワイヤレスコントローラの場合、ロケーション階層の [More Actions] を使用してキャンパス、ビルディング、およびその他の子ロケーションを追加することはできません。[Setup] > [Map Service] でロケーションを更新する必要があります。一方、ロケーション階層からロケーションをグループ化または削除することは可能です。

ロケーション階層からロケーションを削除すると、そのロケーションは [Map Service] から削除されます。[Map Service] からロケーションを削除すると、AP のみがロケーション階層から削除され、階層構造はそのまま残ります。

CMX ノードの名前の変更

CMX ノードの名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロケーション階層で、名前を変更する CMX ノードの [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 [Rename <Cisco CMX Node>] をクリックします。

ステップ 4 表示されるウィンドウに、CMX ノードの新しい名前を入力します。

ステップ 5 [Rename] をクリックします。

次のタスク



(注) 名前の変更は Cisco CMX に反映されません。

CMX ノードの削除

ロケーション階層から CMX ノードを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロケーション階層で、ロケーション階層から削除する CMX ノードの [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 オプションをクリックして、CMX ノードを削除します。

次のタスク



(注) CMX ノードを削除するには、その CMX ノードのロケーションとグループを（存在する場合）先に削除する必要があります。



(注) プロキシミティルールに関連付けられた CMX ノードは削除できません。

キャンパスの名前変更

キャンパスの名前を変更するには、次の手順を実行します

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

- ステップ2 ロケーション階層で、名前を変更するキャンパスの [More Actions] をクリックします。
- ステップ3 [Rename <campus name>] をクリックします。
- ステップ4 表示される [Rename-campus] ウィンドウに、キャンパスの新しい名前を入力します。
- ステップ5 [Rename] をクリックします。

キャンパスの削除

キャンパスを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2 ロケーション階層で、削除したいキャンパスの [More Actions] をクリックします。
- ステップ3 [Delete campus] をクリックします。

次のタスク



(注) キャンパスを削除するには、そのキャンパスの下のロケーションを（存在する場合）、先に削除する必要があります。



(注) プロキシミティルールに関連付けられたキャンパスは削除できません。

ビルディング名の変更

ビルディング名を変更するには、次の手順を実行します。

- ステップ1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2 ロケーション階層で、名前を変更するビルディングの [Location Hierarchy] をクリックします。
- ステップ3 [Rename <ビルディング名>] をクリックします。
- ステップ4 表示される [Rename -network] ウィンドウに、ビルディングの新しい名前を入力します。
- ステップ5 [Rename] をクリックします。

ビルディングの削除

ビルディングを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ロケーション階層で、削除したいビルディングの [More Actions] をクリックします。
- ステップ 3** [Delete building] をクリックします。
-

次のタスク



(注) ビルディングを削除するには、先にそのビルディングの下のフロアまたはゾーン（ある場合）を削除する必要があります。



(注) プロキシミティルールに関連付けられたビルディングは削除できません。

フロアの名前変更

フロアの名前を変更するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ロケーション階層で、名前を変更する組織の [More Actions] をクリックします。
- ステップ 3** [Rename "floor name"] をクリックします。
- ステップ 4** 表示される [Rename-floor] ウィンドウに、フロアの新しい名前を入力します。
- ステップ 5** [Rename] をクリックします。
-

フロアの削除

フロアを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
ロケーション階層を示す [Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロケーション階層で、削除するフロアの [More Actions] をクリックします。

ステップ 3 [Delete floor] をクリックします。

次のタスク



(注) 削除するフロアの下にゾーンがある場合、そのゾーンは、フロアの削除の後、ビルディングの下に移動します。

シスコ ワイヤレス コントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ コントローラのロケーション階層の管理 (WLC Direct Connect または Cisco DNA Spaces コネクタを使用)

プライマリコントローラのネットワークの自動追加

シスコ ワイヤレス コントローラのインポート時にネットワークの選択をスキップした場合、後でいつでもネットワークを自動で追加できます。

シスコ ワイヤレス コントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのネットワークを自動で追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ステップ 2 [Location Hierarchy] ウィンドウで、ネットワークを追加するワイヤレスコントローラの [More Actions] アイコンをクリックします。

ステップ 3 [Edit] をクリックします。

ステップ 4 表示される [Edit Controller] ウィンドウで、[Auto Network Creation] チェック ボックスをオンにします。

ステップ 5 [完了 (Done)] をクリックします。

同じプレフィックスを持つ AP がグループ化され、ネットワークが自動的に形成されます。自動作成されたネットワークに追加されていない AP は、ネットワーク名「未設定」の下にリストされます。

次のタスク



- (注) 自動ネットワークの設定後にワイヤレスコントローラに追加された AP のみがグループ化されます。「未設定」のネットワーク名の下にある既存の AP は、この設定に基づいて自動的にグループ化されません。ただし、「未設定」ネットワーク内の既存の AP と同じプレフィックスを持つ新しい AP がワイヤレスコントローラに追加された場合、既存の AP は、追加された新しい AP とグループ化されます。

プライマリコントローラのネットワークの手動追加

シスコ ワイヤレス コントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのネットワークを手動で追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ステップ 2 [Location Hierarchy] ウィンドウで、ネットワークを定義するシスコワイヤレスコントローラの [More Actions] アイコンをクリックします。

ステップ 3 [Add Network] をクリックします。

[Add Network] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 表示される [Name] フィールドに、ネットワークの名前を入力します。

ステップ 5 表示される [Access Point Prefix] フィールドに、AP がネットワークの下でグループ化するために必要なプレフィックスを入力し、[Fetch] をクリックします。

ネットワークがロケーション階層にリストされます。

- (注) ワイヤレスネットワークでは複数のプレフィックスがサポートされています。ただし、ネットワークを追加する場合は、1つのプレフィックスの AP のみを追加できます。このネットワークに別のプレフィックスを持つアクセスポイントを追加する場合は、追加後にネットワークを編集する必要があります。複数のプレフィックスを持つ AP の追加の詳細については、[複数のプレフィックスを持つ AP のネットワークへの追加 \(33 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 [完了 (Done)] をクリックします。

ネットワークは、前述のプレフィックスを持つ AP と共に作成されます。

複数のプレフィックスを持つ AP のネットワークへの追加

複数のプレフィックスを持つ AP をネットワークに追加できます。たとえば、プレフィックスが AB、BC、および CA の AP があり、AB および BC の AP を 1 つのワイヤレスネットワークにグループ化する場合、それが可能です。

複数のプレフィックスを持つ AP を、シスコワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのネットワークに追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、ウィンドウの左上にある 3 本線のメニューアイコンをクリックします。
- ステップ 2** [Location Hierarchy] を選択します。
- ステップ 3** [Location Hierarchy] ウィンドウで、複数のプレフィックスを持つ AP を追加するネットワークをクリックします。
- ステップ 4** [Location Info] タブで、[Access Points Prefix Used] の [Edit] をクリックします。
- ステップ 5** 表示される [Edit Prefix] ウィンドウの [Prefix] フィールドに、プレフィックスを入力します。
入力されたプレフィックスを持つ AP が一覧表示されます。
- ステップ 6** [プレフィックスの追加 (Add Prefix)] をクリックします。
これで、新しく追加されたプレフィックスが、ウィンドウの右側のペインの [Added Prefixes] の下にリストされます。[Add Prefix] は、入力されたプレフィックスを持つ AP がある場合にのみ有効になります。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
プレフィックスを追加した後、このプレフィックスを持つ [unconfigured] のネットワークの下にある AP がこのネットワークに移動します。
プレフィックスを削除するには、[Added Prefixes] の下にあるプレフィックスにカーソルを合わせ、表示される [Delete] アイコンをクリックします。
- (注) [Access Points Prefix Used] オプションは、ネットワークロケーションでのみ、[Location Info] タブで使用できます。ただし、[Access Points Prefix Used] オプションを [Unconfigured] のネットワークに使用することはできません。
-

追加のセカンダリコントローラの追加

シスコワイヤレスコントローラのインポート時にセカンダリコントローラの追加をスキップした場合、後でいつでも追加できます。セカンダリコントローラを設定した場合でも、複数のセカンダリコントローラを追加できます。

シスコワイヤレスコントローラのセカンダリコントローラを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
- ステップ 2** [Location Hierarchy] ウィンドウで、セカンダリコントローラを追加するシスコワイヤレスコントローラの [More Actions] アイコンをクリックします。
- ステップ 3** [Edit] をクリックします。
- ステップ 4** 表示される [Edit Controller] ウィンドウで、追加するコントローラの [Add More] をクリックします。
- ステップ 5** 表示される [Add additional controller] ウィンドウで、セカンダリコントローラとして設定するシスコワイヤレスコントローラを選択します。

(注) プライマリコントローラに類似したシスコワイヤレスコントローラ（同じ AP を持っている）がリストの一番上に表示されます。

ステップ 6 [Add] をクリックします。

これで、新しく設定したシスコワイヤレスコントローラがセカンダリコントローラになりました。

(注) 複数のシスコワイヤレスコントローラをセカンダリコントローラとして追加できます。ただし、一度に追加できるコントローラは 1 つだけです。

セカンダリコントローラの削除

セカンダリコントローラを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードの左上に表示される 3 本線のメニューアイコンをクリックします。

ステップ 2 [Location Hierarchy] を選択します。

ステップ 3 ロケーション階層で、セカンダリシスコワイヤレスコントローラを削除するプライマリコントローラで [More Actions] アイコンをクリックします。

ステップ 4 [Edit] をクリックします。

表示された [Edit Controller] ウィンドウで、その PrimaryController に追加されたセカンダリコントローラが [Additional Controllers] の下に一覧表示されます。

ステップ 5 削除するセカンダリコントローラで [Delete] アイコンをクリックします。

ステップ 6 表示されるウィンドウで、削除を確定します。

これで、セカンダリコントローラが削除されました。

次のタスク



(注) セカンダリコントローラを削除すると、このセカンダリコントローラ固有の AP（プライマリコントローラまたは他のセカンダリコントローラにない AP）も削除されます。

プライマリコントローラの名前変更

プライマリコントローラの名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

ステップ 2 [Location Hierarchy] で、名前を変更するシスコワイヤレスコントローラの [More Actions] アイコンをクリックします。

ステップ3 [Rename <cisco wireless controller>] をクリックします。

ステップ4 表示される [Rename WLC] ウィンドウで、必要な名前を入力し、[Rename] をクリックします。

これで、シスコ ワイヤレス コントローラの名前が、指定された新しい名前に変更されました。

(注) 名前の変更は、シスコ ワイヤレス コントローラには反映されません。

ロケーション階層での累積数の表示

ロケーション階層では、AP、近接ルール、およびロケーションの子ロケーションの数が累積値として表示されます。ロケーションの数は、ロケーションとそのすべての子ロケーションの数の合計になります。たとえば、あるフロアの AP の総数は、フロアの AP とそのフロアの下各ゾーンの AP の合計になります。

数がゼロのロケーションには、詳細を表示するためのリンクがありません。ロケーションをクリックすると、そのロケーションの AP、近接ルール、ロケーション、およびユーザーを表示できます。ロケーションパラメータの詳細は、関連付けられたロケーションからのみ表示できます。

近接ルールの場合、一意のルールのみがカウントされます。たとえば、フロアの2つのゾーンがあるエンゲージメントルールに含まれている場合、フロアのルールをカウントするとき、そのエンゲージメントルールは1回だけカウントされます。